

# 有害プランクトン情報 (令和3年度 - No. 4)

千葉県水産総合研究センター  
東京湾漁業研究所・生産技術研究室  
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日 沖合  
7月 第1回 内湾 (8 地点) 7/6 内房 (7 地点) 7/8  
7月 第2回 内湾 (8 地点) 7/19 内房 (2 地点) 7/20

貝類漁場内  
九十九里 7/11,12 (生産技術研究室が担当)  
鴨川 7/12 (生産技術研究室が担当)  
千葉北部 7/19 木更津南部 7/26 富津 7/12

## 東京湾(内湾)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) が第2回目の調査で確認されました。

・7/19 アクアライン北部～船橋沖、羽田沖で確認。

アクアライン南部および羽田沖：渦鞭毛藻類 (ゴニオラックス属, スクリプトシエラ属など) による赤潮

船橋沖：小型の藻類 (種は不明) による赤潮

※基準には満たないものの千葉沖～盤洲南部も近い状況でした。

※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

#### 1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

#### 2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合漁場および貝類漁場内 (千葉北部, 木更津南部) でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
  - ・7/6 内湾全域 (沖合) 最高密度はアクアライン南部の3.1細胞/mL
  - ・7/12 富津 (貝類漁場) 密度は0.3細胞/mL
  - ・7/19 千葉北部 (貝類漁場) 密度は0.2細胞/mL
  - ・7/19 富津沖～アクアライン南部、羽田沖及び盤洲北部～南部 (沖合) 最高密度は盤洲南部の1.6細胞/mL
  - ・7/26 木更津南部 (貝類漁場) 密度は0.3細胞/mL

- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

## 東京湾(内房)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。  
※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) は確認されませんでした。

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

#### 1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

#### 2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。
  - ・7/8 内房全域 (沖合) 最高密度は保田沖の 1.4 細胞/mL
  - ・7/20 第2海ほ (沖合) 密度は 0.3 細胞/mL

- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

## 九十九里海域(旭〜一宮沖貝類漁場)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。  
※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) は確認されませんでした。

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

#### 1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- 確認されませんでした。

#### 2 下痢性貝毒原因プランクトン

- 貝類漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
  - ・7/12 九十九里 (貝類漁場) 密度は 0.2 細胞/mL
- 貝類漁場でディノフィシス フォルティがみられました。低密度でしたが、注視が必要です。
  - ・7/11 九十九里 (貝類漁場) 密度は 0.05 細胞/mL
  - ・7/12 九十九里 (貝類漁場) 密度は 0.1 細胞/mL

- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

## 鴨川海域

### 【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。  
※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) は確認されませんでした。

### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

#### 1 麻痺性貝毒原因プランクトン

○ 貝類漁場で（旧）アレキサンドリウム カテナラがみられました。その後の検査で貝毒は検出されませんでした。

・7/12 鴨川 （貝類漁場） 密度は0.7 細胞/mL

2 下痢性貝毒原因プランクトン

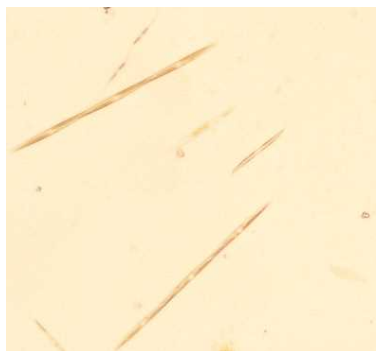
○ 確認されませんでした。貝毒検査では下痢性貝毒が0.02mgOA 当量/kg 検出されました。

○ 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

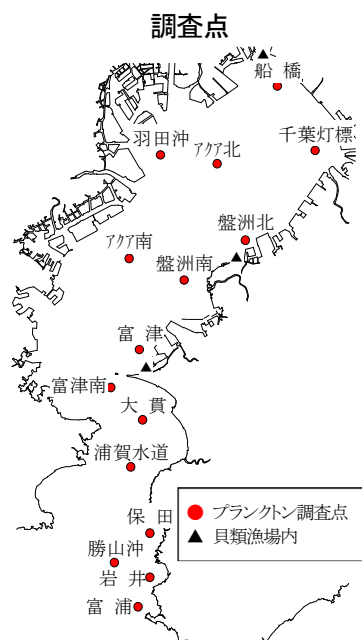
（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

7/6,7/8	内湾・内房	渦鞭毛藻スクリプトシエラ属、珪藻シュードニッチア属、スケルトネマ属、キートセロス属など
7/19-20	内湾・内房	珪藻シュードニッチア属、スケルトネマ属、渦鞭毛藻類ケラチウム属ゴニオラックス属など



シュードニッチア属  
(7/6 富津沖)



連絡先：千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp